

TOPIC 1 HEAT20、「夏期・中間期」の外皮性能水準を策定

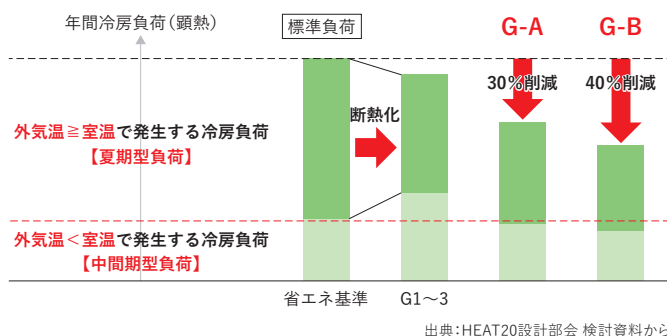
HEAT20((一社)20年先を見据えた日本の高断熱住宅研究会)は、暖房負荷だけでなく冷房負荷にも新たな目標設定が必要と考え、戸建住宅の「夏期・中間期の外皮性能水準」として「G-A」「G-B」を策定した。

住宅性能表示制度の断熱等性能等級の参考にもされた冬期を対象に外皮が目指すべき性能水準「G1」「G2」「G3」に続くもので、「夏期・中間期の外皮性能水準」は主に開口部、壁の日射遮蔽対策、外気導入など、「建築力」の向上により、冷房負荷を削減する目安とする。

今回の「夏期・中間期の外皮性能水準」は、HEAT20水準の住宅が外皮の高断熱化により、少数の高効率熱源で住宅全体を空調する準セントラル空調の採用が主流になっていることを踏まえて、準セントラル空調を前提としたG1、G2、G3水準の住宅を対象とした。そのうえで省エネ基準レベルの住宅比で冷房顕熱負荷を「G-B」で40%削減、「G-A」で同30%削減とした。

「G-B」は、省エネ基準の部分間欠冷房負荷(顕熱)とほぼ

HEAT20 が提案する新たな外皮性能基準



同等で全館連続冷房が可能なレベルだ。6、7地域の温暖地において40%削減を達成するにはハイレベルなため、現実性を優先してそれに準じる30%削減の「G-A」を設定。また、中間期型負荷(外気温が27℃未満のときに発生する冷房負荷)に対して、G-A、G-Bのいずれも、省エネ基準適合住宅に比べて冷房顕熱負荷を増大させないことも指標の一つとした。冬期の外皮性能水準G1~G3と合わせて表記する場合は、「G2-B」、「G3-A」などと表記する。

TOPIC 2 独自の技術開発で木造マンション普及拡大へ

“木造マンション”という新市場の創出に向けて、ハウスメーカー各社が動きを活発化させている。

AQ Groupは、次世代純木造マンションシリーズ「AQフォレストシリーズ」の第1号物件として、さいたま市に純木造4階建ての賃貸マンション「AQフォレスト大宮桜木町」を竣工した。日本初の壁倍率35.8倍の耐力壁を使用。さらに、日本初の外壁90分耐火認定を取得。これにより最上階の居室の構造梁を室内に露出した「木のあらわし」を耐火建築として初めて実現した。強靱な耐力壁を建物外周部に効率的に配置することでスケルトン&インフィル設計が可能で、将来、自在に間取りを変更できる。

住友林業は、木造とRC造混構造6階建ての社宅を完成

させ、木造混構造の中大規模集合住宅のモデルケースとしてアピールする。建物中央部をRC造、両サイドを木造とし、水平力を中央のRC造部分に集中させることで、木造部分への負担を減らし、木造の柱や梁のスリム化とコスト削減につなげた。また、混構造用に工法や部材を開発しており、同規模のRC造と比較し工期が長い傾向の混構造でも同等の工期を実現した。

そのほか、木造技術ブランド「MOCX(モクス)」を展開する三井ホームは、桜の聖母学院中学校(福島県福島市)の校舎増築工事を着工した。こうしたノウハウを応用することで、木造マンションのバリエーションも増えていきそうだ。

新刊

省エネ基準の義務化へ 関連法令を一冊に集約

傘創樹社

必携

住宅・建築物の省エネルギー基準関係法令集 2025

住宅・建築に関わる企業、地方自治体、性能評価機関などに向けた必携の書

